継続加入申込書の提出と会費・

今月中に、皆様のお手元に継続加入申込書の提出依 頼書をお送りいたしますので、必要事項をご記入い ただき、平成27年1月末までに事務局までご返送い ただきますようお願いいたします。

継続加入申込をいただいた方には、追って会費・保険 料のご請求書をお送りいたしますので、ご納入いた だきますよう重ねてお願いいたします。

平成26年度国産ナチュラルチーズ 製造技術初級研修会・東京会場

中央酪農会議では、生乳生産者等が製造する牛乳乳 製品の需要創出・消費拡大の取り組みを支援し、国産 牛乳乳製品の需要確保及び生乳生産基盤の維持を図 ることを目的として、国産ナチュラルチーズの製造の ための知識・技術の習得・向上、衛生管理強化等のた めの製造技術研修会を開催いたします。

開催要領

		程	平成27年2月3日(火)13:00から 2月5日(木)12:00まで
	会	場	品川区立総合区民センター「きゅりあん」 東京都品川区東大井5-18-1
募集人員		、昌	20名

製造及び工房立ち上げを希望する酪農家、 チーズ製造に携わって間もない工房製造担

講義:ナチュラルチーズ製造の基礎知識、 チーズ用スターター・レンネットの基 礎知識、工房設立にあたっての許認可、 中小施設器具·機械事例等

実習: フレッシュタイプとセミハードタイプ

中央酪農会議HP掲載の受講申込書に必要事 項を記入の上、1月13日(火)までにお申し込 み下さい(必着)。HPをご覧になれない場 合は、FAX・はがき等にて、下記までご連絡 いただければ、開催要領・受講申込書を送付

T101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-6-1堀内ビルディング4F 一般社団法人中央酪農会議業務部(担当:本田) TEL:03-6688-9841FAX:03-6681-5295

参加費用等

研修参加費用は無料です。ただし研修期間中 の宿泊費及び現地までの交通費は自己負担と なります。また研修会初日の懇談会費として、 6千円程度をお支払いいただく予定です。

※詳しくは、中央酪農会議のHP(http://www.dairy.co.jp/)をご覧ください。

● 交牧連HPをご覧ください

吉田副会長と各ブロックの担当者により、 本会のフェイスブックが続々と更新されています。 ブロックや会員牧場の活動状況や酪農に関する最新 情報など、楽しくてタメになる情報がいっぱい。 ホームページからもフェイスブックはご覧になれます ので、ぜひお仕事の合間にでも覗いてみてください。

地域交流牧場全国連絡会



http://www.dairy-farm.jp/

facebook『地域交流牧場全国連絡会』



https://www.facebook.com/koubokuren

交牧連に新たな仲間が加わりました!

今年度、新たに本会に加入された会員牧場を紹介します。

■東北ブロック: KSファーム・佐藤牧場(岩手県) 北杜ポランファーム(秋田県)

■北陸ブロック:大沢牧場(石川県)

■近畿·中国· . 片岡牧場(徳島県) 四国ブロック・ダムの見える牧場(島根県)

※平成26年12月現在、294会員です。

今年もお世話になりました。 来年も何卒宜しくお願いいたします 良いお年をお迎えください。



★MILK JAPAN の HP も見てくださいね!

事務局からの ご挨拶

: 皆さま、こんにちは。昨年度から MILK JAPAN やミルククラブ、酪農理解のための情報発信事 業などを担当しております、阿南と申します。

私は一昨年まで総務の仕事をやっておりまして、これまであまり外に出ることがなかったのですが、 去年から少しずつ行事に参加させていただいたり、酪農の現場を見せていただいたりする機会が増え てきて、とてもありがたく思っています。今後も一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。





地域交流牧場全国連絡会 平成26年12月発刊 DAIRY FARM NEWS











「被災した子どもたちを元気にしたい」 東北復興支援事業4力年の取り組みについて

平成26年度は岩手、宮城、福島で、も~も~スクールを開催

共催: (一社)中央酪農会議、畜産経営支援協議会 協力: 東北生乳販売農業協同組合連合会等

本会は、乳牛や酪農家とのふれあいを通じて、東日本 大震災で被災した子どもたちの心の傷を癒すことを大き な目的として、今年9月に岩手県陸前高田市、宮城県石 巻市、福島県いわき市でもーもースクール(小学校への 出前授業)を実施しました。

実施にあたり、全国の会員牧場から「被災した子ども たちを元気にしたい」という気持ちを抱いた多数のスタッ フが駆け付けるとともに、アイスクリームも提供いただ きました。また、26年度は新たな取組みとして、宮城県 加美農業高校の協力により、高校生もスタッフとして参 加しました。さらに、一般社団法人中央酪農会議、東北生 乳販売農業協同組合連合会、畜産経営支援協議会等に協力 をいただきました。この場を借りて深くお礼申し上げます。

本事業は平成23年度からスタートし、消費者交流を行 う牧場のネットワークである本会の強みを活かすものとし て、小学校への出前授業(もーもースクール)と牧場で の酪農体験等をこれまで4カ年実施してきました。今年の 全国研修会が先般、東北ブロックで開催された際には、教 育関係者も交えて、本事業の4年間の総括を行いました。

また、7月に実施した第75回理事会では、27年度以 降の本事業の継続について協議を行い、本事業は基本的 には東北ブロックで継続して実施することとし、他ブロッ クの会員にはボランティア参加を呼び掛けるということ を確認しました。

本会としては、4年間で培ったノウハウやネットワー クを大事にしながら、更なる活動の質的向上を目指して いきたいと思います。







東北復興支援事業実施一覧

平成 23 年度

- 静岡県・松下牧場 小学生53名、学生ボランティア等 19 バター作り、搾乳、ブラッシング、牛舎掃除、酪農家の話等の牧場体験
- 山形県・山川牧場 小学生、看護師、学生ボランティア等 22 名 搾乳、哺乳、酪農家の話等の牧場体験
- 宮城県石巻市立橋浦小学校 橋浦・相川・吉浜小児童 170名 酪農体験、牛乳の話、バター作り等の出前授業 理事・東北ブロック中心に会員36名参加 会員からアイスクリーム提供
- 9/21 岩手県・くずまき高原牧場 中学生 99 名 ~22 アイスクリーム作り、牛舎観察、エサやり、搾乳等の牧場体験
- 岩手県大船渡市立綾里小学校 綾里小3年生21名 11/10 酪農体験、牛乳の話、バター作り等の出前授業 東北ブロック中心に会員8名参加

- 岩手県・くずまき高原牧場 中学生884名 乳製品加工、育成牛の世話、搾乳等の牧場体験
- 岩手県・間澤牧場 小学生 45 名 9/7 搾乳、エサやり等の牧場体験
- 静岡県・松下牧場 小学生 103名
- 15 搾乳、哺乳等の牧場体験
- 岩手県大船渡市立綾里小学校 綾里小3年生20名 9/3 酪農体験、牛乳の話、バター作り等の出前授業
- 岩手県陸前高田市立長部小学校 長部・気仙小児童 118名 9/4 酪農体験、牛乳の話、バター作り等の出前授業 全国から会員 22 名参加、会員からアイスクリーム提供
- 宮城県石巻市立橋浦小学校 橋浦・相川・吉浜小児童 146名 9/5 酪農体験、牛乳の話、バター作り等の出前授業 全国から会員34名参加、会員からアイスクリーム提供
- 宮城県・蔵王酪農センター 小学生 10名 バター作り、搾乳、牛舎掃除等の牧場体験
- 山所県・山川牧場 小学生 103名 搾乳、哺乳等の牧場体験

- 岩手県陸前高田市立小友小学校 小友小児童 77 名、矢作小 3·4 年生 22 名 酪農体験、牛・牛乳の話、バター作り等の出前授業 全国から会員 24 名参加、会員からアイスクリーム提供
- 宮城県石巻市立北上小学校(旧:橋浦小) 北上小児童 129 名 超農体験、牛・牛乳の話、バター作り、小動物とのふれあい等の出前授業 全国から会員 33 名参加、会員からアイスクリーム提供
- 福島県相馬市立八幡小学校 八幡小児童 100 名 10/8 酷農体験、牛・牛乳の話、バター作り等の出前授業 全国から会員 30 名参加、会員からアイスクリーム提供 協力:福島県酪農協

- 岩手県陸前高田市立矢作小学校 矢作小児童64名 酪農体験、牛・牛乳の話、バター作り等の出前授業 全国から会員 17 名参加、会員からアイスクリーム提供
- 宮城県石巻市立北上小学校 北上小児童 109 名 酪農体験、牛・牛乳の話、バター作り等の出前授業 全国から会員 27 名参加、加美農業高校生が参加、会員からアイスクリーム提供
- 福島県いわき市立久之浜第一小学校 久之浜第一小児童 172名 酪農体験、牛・牛乳の話、バター作り等の出前授業 全国から会員30名参加、会員からアイスクリーム提供、協力:福島県酪農協

平成26年度地域交流牧場全国連絡会

日時:平成26年11月23(日)・24日(月) 場所:東北ブロック(宮城県)

後援:農林水産省、宮城県教育委員会、石巻市教育委員会、株式会社日本教育新聞社、 日本酪農教育ファーム研究会、KTO道徳授業研究会、東北生乳販売農業協同組合連合会、 一般社団法人中央酪農会議



今年度の全国研修会は、これまで4年間取り組んでき た東北復興支援事業、特に全国から会員が一堂に会して 実施してきた「もーもースクール(小学校への出前授 業)」の効果検証を中心テーマに、教育関係者を交えた 講演やディスカッションを行ったほか、被災地の酪農状 況の報告や、蔵王酪農センターの視察を行いました。

全国から会員酪農家、教育関係者、酪農関係者など約 80名が参加しました。

冒頭、廣野正則会長(香川県・広野牧場)は、本会が 平成11年の発足以来15年目を迎え、酪農教育ファームな どの消費者への理解醸成活動の大きな牽引役として重要 な役割を果たしてきたことを述べ、「生産現場では多く の課題があるが、我々が震災以来4年間継続的に実施し てきた『もーもースクール』についてその効果を検証 し、次の取り組みにつなげたい。酪農教育ファームが更 に発展するよう、皆さんに研修会を終えて元気になって 帰って活動していただきたい」と挨拶されました。

また、農林水産省生産局牛乳乳製品課の冨澤宗高課長 補佐、一般社団法人中央酪農会議の内橋政敏事務局長、 東北生乳販売農業協同組合連合会の伊藤強代表理事専務 の3名の来賓から、祝辞をいただきました。

研修会では、筑波大学附属小学校の加藤宣行教諭の「酪農と道 徳~酪農体験を生かす教育の力~」と題した基調講演で、小学校 授業のなかで酪農体験を生かす教育(道徳との関連性)や、子ども たちに体験を深化させるための問いかけ方など、子どもたちに向 き合う具体的なアドバイスについてのご示唆をいただきました。

基調講演の後のパネルディスカッション「探ろう酪農教育ファー ムの力~もーもースクールの教育的効果について考える~」では、 酪農教育ファームの多様な効果について、会場参加者と活発な意見 交換を行いました。心に傷を負った子どもたちへの接し方や、心に どのような変化がみられたかなどの質問もあり、参加した酪農家か ら「特にいつもと変わらない。心に響いてほしいと一生懸命語りか けた」「はじめは手探りだったが、子どもたちの沈んだ気持ちに寄 り添い、ありのままの自分の言葉で語りかけた」などの発言があり ました。また、教育関係者からは「酪農家の方がメニューを発展させ て取り組んでくれたおかげで、積み重ねの体験ができ、児童の感想も 表面的なものからより酪農家の仕事の本質に迫るようなものになっ た」「酪農家が帰るときに泣いてしまった児童もいた」など、酪農家

と子どもたちの交流の成果に 関する発言がありました。

パネルディスカッションを 通じて、牛の温かさや酪農家 の真摯な言葉が、被災地の子 どもたちの心を解きほぐす大 きな力になったことを改めて 確認できました。また、今後 の活動では農業高校生の参加 など、酪農に関心のある若者 の育成も兼ねて、継続性のあ る地域的な取組みに広げるこ とが目標であるという方向性 も出されました。



パネルディスカッション



被災状況を報告いただいた2名

11/23(日)

基 調 講 演「酪農と道徳~酪農体験を生かす教育の力~」 筑波大学附属小学校 教諭 加藤 宣行

パネルディスカッション 「探ろう 酪農教育ファームの力

~ もーもースクールの教育的効果について考える~ |

コーディネーター 西田 敦子(日野市教育委員会 委員長、地域交流牧場全国連絡会 理事) パ ネ ラ ー 菅野 敏 (岩手県陸前高田市立矢作小学校 教諭)

> 三浦 由美(宮城県石巻市教育委員会 指導主事) 門馬 和枝(福島県相双農林事務所主査)

高瀬 有香子(筑波大学附属視覚特別支援学校 栄養教諭) 安原 栄蔵 (ABITANiA ジャージーファーム代表、

地域交流牧場全国連絡会 理事) 被災した酪農家等から みやぎの酪農農業協同組合 指導課 日野 直樹 係長

の報告・意見交換会 ミネロファーム 紺野 宏 牧場長

流

11/24(月)

- ホテル松島大観荘の被災状況等について
- 一般財団法人蔵王酪農センター視察

※全体進行:小沢正(小沢牧場代表、地域交流牧場全国連絡会理事)



小原理事長のご挨拶(蔵王酪農センターにて)



笠原マネージャーより、 蔵王酪農ヤンターの概要説明